

ぶん活かわら版

発行日：令和3年（2021年）2月24日

発行者：滋賀県文化スポーツ部

文化財保護課文化財活用推進室

第32号

（電話番号：077-528-4681）



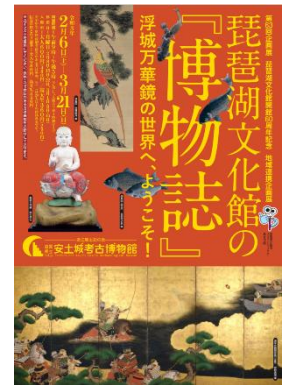
今年の大河ドラマは渋沢栄一

滋賀県ゆかりの武将・明智光秀が主人公だった「麒麟がくる」も先日終わってしまい、「麒麟ロス」を感じている人もいるのでは？

さて、新たに始まった大河ドラマ「青天を衝け」の主人公は渋沢栄一。滋賀県との関連をご紹介します。陽明学に親しんでいた渋沢は、日本における陽明学の祖である近江聖人・中江藤樹を祀る神社を建立するための「藤樹神社創立協賛会」の顧問に就任し、自ら寄付するなど活動支援をしました。この尽力もあり、藤樹神社は高島市安曇川に1922年に創立されました。現在、「近江聖人中江藤樹記念館」では特別展示「渋沢栄一と藤樹神社」を開催中です（～3月31日まで）。

滋賀県立琵琶湖文化館 開館60周年

大津市なぎさ公園の琵琶湖の中に建つ、お城のような形の滋賀県立琵琶湖文化館は、3月20日に開館60周年を迎えます。現在休館中で、館内で展示を見ていただくことができないため、滋賀県立安土城考古博物館にて開催中の琵琶湖文化館開館60周年記念 地域連携企画展「琵琶湖博物館の『博物誌』—浮城万華鏡の世界へ、ようこそ！—」で、収蔵品の中から、ユニークで興味深い作品を選んで公開しています（～3月21日まで）。かつての文化館の懐かしい思い出もよみがえるかもしれません。あの「トンボ」の謎も解けるかも！？



（写真左）会館当時の琵琶湖文化館。プールも洋食レストランも水族館も美術館も博物館も展望台も、何でもある夢の施設でした。

（写真右）会場では、琵琶湖文化館の収蔵品などを元にした、おとも楽しめるぬりえを計6種類用意しています。

※ぬりえは琵琶湖文化館のホームページからもダウンロードできます。ぜひチャレンジしてみてください！ http://www.biwakobunkakan.jp/challenge/callenge_oumi.html

文化財イベント情報

●令和2年度 発掘調査成果パネル展「土の中から歴史が見える2020-最新の発掘成果から-」

令和2年度に実施した発掘調査のうち、注目すべき11の遺跡を紹介するパネル展示。観覧無料。
会場：滋賀県立図書館1階 談話室 日程：2/25～3/7（期間中の休みは図書館休館日と同じ）
※同期間中に、同じ「びわこ文化公園内」にある滋賀県埋蔵文化財センター玄関ロビーで「びわこMyぶん祭2020」絵画作品展示も開催！絵画のモデルとなった土器も展示します。（埋蔵文化財センターの休館日は、館外のガラス越しにご覧いただけます）

●近江のたからもの わくわく体験

文化財などに関する、ちょっと変わった展示を行います。ここでも上記のぬりえを配布いたします。
会場：近鉄百貨店草津店2階「アカリスポット」、5階「みどりの広場」
日程：3/3～9 ※3/6・7には体験イベント（書道・湖魚調理実演・近江の茶）も実施します。

「湖国の祭り歳時記」の3月開催分は休載いたします

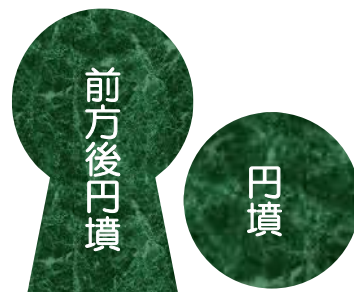
滋賀県の記念物 指定 100 周年

「ぶん活かわら版」第6号でご紹介した「記念物100年」。大正8年（1919年）に、文化財保護法の前身の一つである「史蹟名勝天然記念物保存法」が施行され、その後、この法の下に滋賀県で初めて記念物が指定されたのが大正10年（1921年）3月3日でした。

このとき滋賀県で初めて指定を受けた記念物4件（史跡1件、天然記念物3件）をご紹介します。

史跡「茶臼山古墳・小茶臼山古墳」（大津市）

茶臼山古墳は古墳時代前期（4世紀・330～350年頃）に築造された前方後円墳で、全長約120mと県下3番目の大きさです。琵琶湖と湖岸を通る東海道を一望できる位置に築かれています。小茶臼山古墳は茶臼山古墳から200mほど離れたところにある円墳で、陪塚（ばいちょう・ばいつか：大きな墓のそばにある小さな墓）ではないかと考えられています。



世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」の仁徳天皇陵古墳などは、築かれた当時は海上からその威容を望むことができました。これは、当時の先進地である大陸や朝鮮からの使者に対し、国の力を誇示する意味合いがあったとされています。茶臼山古墳をはじめとした琵琶湖の周囲にある古墳もまた、その地の水運や交通を支配していたことや、行き交う人々に力を見せつけていたことを表していると考えられます。

さて、茶臼山古墳は史跡に指定されてからは100年ですが、古墳の誕生からは1,600年以上経過しています。約500年前の城跡の土塁が、何とか形をとどめていることに対し、それより1,000年以上前に築かれた墳丘が今も当時の形を残していることから、土木技術の高さと、周囲に誇る堅固なものを築かせることができる支配者の力の強さを感じることができます。

天然記念物「平松のウツクシマツ自生地」（湖南市）

美松（びしょう）山の一部に自生するアカマツの変種で、この地にもみ200本ほどが自生しています。その名のとおり美しい樹形の松で、江戸時代には東海道名所図絵などでも広く紹介されています。根に近い低いところから幹が分かれ出て、傘を広げたような樹形に特徴があります。

写真は（公社）びわこビジターズビューロー⇒



天然記念物「南花沢のハナノキ」「北花沢のハナノキ」（東近江市）

東近江市の南花沢と北花沢の600mほど離れた地点にあるハナノキ（カエデ科の高木）が、それぞれ天然記念物に指定されています。4月頃に葉に先駆けて小さな紅色の花を枝いっぱいにつけることから、この



名がつけました。1200年前、聖徳太子が仏法の繁栄を祈願して、南北に1本ずつ刺した箸が成長したものであるという伝承があります。いずれも他所から移植されたものと考えられますが、『近江輿地志略』（1733年）という書物に記事があるため、江戸時代には既に有名な樹木であったようです。



<聖徳太子について>

2022年に聖徳太子没後1400年を迎えます。聖徳太子伝説の多く残る東近江市、近江八幡市、日野町、竜王町では、「聖徳太子1400年悠久の近江魅力再発見委員会」を発足し、伝承や魅力を発信する取組を進めています。聖徳太子の足跡を訪ねて湖東地域巡りはいかがですか？

<近江輿地志略（おうみよちしりゃく）について>

滋賀県立琵琶湖文化館所蔵の滋賀県指定有形文化財。膳所藩主の命をうけて編纂された、近江国全域を対象にした初の本格的な地誌。全101巻100冊で、歴史的・地理的概観、地勢、名所旧跡などが示されています。現在、安土城考古博物館企画展で、現物を展示公開しています。